

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 14-011

PDCA	事務事業名	ごみ収集運搬事業	部課等名	市民経済部 クリーンセンター ごみ減量担当	担当	深川	
					内線等	23-3567	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節： 第2節 環境との共生 基本施策： 2. 廃棄物対策 単位施策： (2) 廃棄物の処理 個別施策： ②廃棄物の適正処理					
	根拠法令等	半田市廃棄物の減量及び処理に関する条例					
	対象・目的	家庭のごみや資源を速やかに収集することにより、街の美化に努め、市民の生活環境の向上を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	・ごみステーションに出されたごみ等の収集 ・収集車両の適切な維持管理 ・粗大ごみの戸別収集 ・委託業者への指導 ・ごみ袋及び指定資源回収袋の適切な管理					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①ごみステーションから収集した家庭ごみ総量	22,639	22,634	24,289	トン	
		事業費	236,707	279,609	288,987	千円	
		人件費	10,372	11,840	11,800	千円	
		総事業費	247,079	291,449	300,787	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①市民一人当たりのごみ収集運搬事業費	2.1	2.4	2.5	千円		
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①ごみステーションへの不適正な排出の削減	実績値	147	160	170	件
			目標値	140	140	140	
			実績値				
			目標値				
			実績値				
		目標値					
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ある
	事業の評価・課題	C					
		委託収集業務を計画的に実施したことで、家庭から排出されるごみや資源を適正、かつ速やかに収集し、処理することができた。一方、ごみステーションへの不適正な排出については、目標値は達成できなかった。自治区や住民と連携して、看板などによる注意喚起を行い、不適正排出の未然防止に努める。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進					
		安全・円滑・効率よく適切な収集業務を実施することにより、家庭ごみや資源の適正処理と街の美化に努める。令和3年4月から開始した家庭系ごみの有料化により、指定ごみ袋が変更になったため、適正にごみを収集できるように委託業者と連携を強化していく。					
	令和3年度の目標	成果指標				目標値	単位
		ごみ収集を適正に実施する					